

わづかな兆したしかかな備え

教育用!防災ゲーム

「次はどうなる?」「何をすべき?」
を主体的に考え、取り組めるように促します。

地震大国である上に、異常気象が常態化する今、「避難訓練」等の意義を深める学びの機会が必須となっています。

また総合的な知見や学びが求められる教育現場で活かせる、
様々な学びを得られるプログラムこそが今求められる「防災教育」ではないでしょうか?

Problem

全国の学校における防災教育の実施状況

安全教育への関心は高まる傾向にあるものの、適切な知識・教材不足。

安全教育には、「生活安全」「交通安全」「災害安全」があり、災害安全では「地震」「火災」をテーマにした「避難訓練」のみとなっている状況が長らく続いています。指導の充実を図るべきとする課題感
は各学校にあるものの、時間の確保や指導者の知識不足など、改善に至らない状況にあるようです。

災害を単なる事象ではなく、「兆し」「行動」「復興」と、一貫した流れで理解できる授業をゲームで楽しみながら展開できます。

授業の流れと学びのポイント



兆し

学びの
Point!

- 自然災害にはいくつも種類がある。
- 災害によっては、特長的な「兆し」がある。

「自然災害」と「兆し」をセットで理解できれば、行動準備に
繋がやすくなります。



災害

学びの
Point!

- 「兆し」から起こりうる「災害」を
考える。
- 必要となる「アイテム」を選び
「災害」に備える。

「災害」からの被害を少なくするための正しい行動を考えます。



復興

学びの
Point!

- 災害情報を手に入れるには?
- 周囲の人と協力して被害を
最小限にする。

学校、家庭、地域社会の安全活動として、実際に自分に何が
できるかを考えます。



まとめ

学びの
Point!

- 防災の重要性和地域の災害リスクを知る。
- 周囲と協力しながら避難や復興に
向けた主体的な行動を学ぶ。
- 居住地以外の災害にも関心を持つ。

災害の状況に応じた「正しい行動」を理解します。

防災を通して育まれる 非認知能力

限られた状況で正しい情報を取捨し、
メタ認知を高める。

すぐにでも正しい情報がほしい災害時こそ、判断・比較・整理を踏まえて、客観的で正確性のある情報を選べる思考力が必要です。

避難・復興のための行動を考えて、
協働性を育む。

ゲームの中では、被害のなかった人が被害のあった人にアイテムを
渡す「助け合い」の場面が発生します。互いが生き抜くためのより良
い行動とは何かを考えます。

自助・共助・公助の視点から
社会的コミュニケーションを学ぶ

避難経路の確認・共有や災害時の声かけ・安否確認、物資の共有など
地域コミュニティの役割の大きさを理解します。

製造・販売元

子ども未来キャリア
株式会社イー・ラーニング研究所

〒564-0063 大阪府吹田市江坂町1-23-38 F&Mビル6F

TEL:06-6339-4177 FAX:06-6339-4180

子ども未来キャリア



販売代理店